ズン ベトナム社会主義共和国首相 国会演説の際の衆議院議長挨拶

（平成十八年十月十九日（木）午後二時三十分）

（於 参議院議場）

グエン・タン・ズン首相閣下、心情あふれるお話をお聞かせいただきまして、誠にありがとうございました。

私ども日本国民は、ベトナム国民が独立不羈の精神の下、決して大国の支配に屈することなく民族の独立を獲得し、守ってこられましたことに心からの尊敬の念を抱いております。また、勤勉で高い生産性を誇り、美しいものを愛し、またズン首相閣下のお話にもありましたようにわが国と文化的にも共通する背景を持つベトナム国民に、日本国民は親しみの気持ちを覚えております。

しかしながら、ドン・ズー運動のお話がありましたが、明治維新後のわが国が、いつもベトナム民衆の期待に応えてきたかと申しますと、忸怩たるものがございます。先の大戦において、わが国の軍政下において多数の餓死者を出してしまったことを、私たちは決して忘れてはならないと思います。

しかし、ズン首相閣下はそのような歴史を乗り越え、「過去にとらわれず、未来をめざす」ベトナム国民の意向に従うとして、一九七三年の外交関係樹立以来の両国関係の成果について、わが国の協力への感謝のことばも含め、建設的なメッセージを発せられましたことは、日本国民に強く印象づけられました。

ズン首相閣下から、最近の朝鮮半島と核兵器核拡散をめぐる問題について、強い懸念と国際社会の協力が呼びかけられました。来月には貴国のハノイでＡＰＥＣ首脳会議が開催されます。

私は、ベトナムが新しい指導部の下、益々発展を遂げられますこととともに、アジア、ひいては世界の平和な発展に向け貢献されますことを、またわが国とベトナムの関係がますます深まり、発展することを祈念して、私の歓迎のご挨拶といたします。

日本語版は非公式訳です。正文はベトナム語です。演説終了後にご使用下さい。

グエン・タン・ズン・ベトナム首相国会演説

２００６年１０月１９日

東京

河野洋平　衆議院議長閣下

扇千景　参議院議長閣下

安倍晋三　内閣総理大臣閣下

両院議員の皆様、

本日、私はベトナム社会主義共和国首相として初めて日本を訪問させて頂き、日本国民と各党派の代表者が集まる百年余りの長い歴史を有する日本の最高の立法機関である国会でご挨拶する機会を得たことを大変光栄に存じます。私たちに与えられたその栄誉と大変温かいおもてなしに、心から感謝申し上げます。

私はこの重要な演壇から、ベトナム政府と国民を代表して、皆

様方と約１億３千万人の日本国民の皆様に対し、最高の友情と慶祝の辞をお伝え申し上げます。

本日のこのような機会は、益々強化されている両国関係の明るい象徴であります。

ベトナムと日本の交流関係は、最近始まったことではありません。両国は、地理的に近いことに加え、文化的にも非常に近く、長い歴史を有しています。１７世紀から１８世紀には日本の多くの商船がベトナム北部のフォー・ヒエンや南部のホイアンに寄港し貿易を行い、肥前焼物など多くの日本文化の遺産を残しております。日本の明治維新の成功は、ベトナムの多くの知識人の強い関心を引き、２０世紀初めにベトナムの民族振興のために日本の経験を学ぼうとするドン・ズー（東遊）運動を引き起こしました。

ベトナム・日本両国は、歴史の変遷を経て、１９７３年に外交関係を設立し、関係正常化を成し遂げました。ベトナム国民は、善意・公正の心と平和・親善という伝統に基づき、過去にとらわれず、未来を目指しております。そして、ベトナム政府は、このような国民の意向に従って、アジア太平洋のみならず世界において重要な役割を担っている世界第二の経済大国である貴国と、全面的な協力関

係を強化することを最優先しています。

両国関係は前世紀の９０年代から大きく発展し、新しいページを開いたことに満足し得るだけの十分な理由があります。

両国の政府や国会、各分野、団体、地方の間の交流など活発な政治関係は、全面的協力関係を促進させるための力強い原動力になっています。特に２００２年のノン・ドゥック・マイン書記長の日本訪問の際、両国指導者が長期安定信頼パートナーシップの確立に合意したことで、政治、外交、経済、安全保障など広汎な分野での協力関係が形成されましたが、これが効果的に機能しています。

日本は、ベトナムにとって、日増しに大きくなる最大級の経済、貿易のパートナーです。それは両国の確固たる協力関係のための物理的な基礎となっています。貿易額が急激に増加し、そして均衡しています。日本の対ベトナム投資は実行額ベースで最大であり、最も効果的に活用され、双方に利益をもたらしています。

特に日本からは、ベトナムにおいて最も多くの開発援助を提供して頂いており、その援助は目的通りに正しく効果的に使用されています。そして、日本の援助は、その高い技術や先進的な経済運営経験によって、ベトナム経済および社会発展の実現に大きく貢献し

ていると同時に、ベトナムにおける日本企業の活動のための良い環境を作り出しています。

ベトナムは貴国の政府開発援助を最も効果的に使用している国であることを再確認させて頂きます。最近、ベトナム交通運輸省管轄のプロジエクト管理委員会では不正事件がありましたが、この委員会は日本のＯＤＡを含む多くの国のＯＤＡを管理しています。本件につきましては、現在ベトナムの関係法律機関が調査しており、透明性をもって厳正に処理されております。しかしながら、今回の事件は、貴国の援助で造られた建造物の質に何ら影響を及ぼすものではありません。なぜなら全ての案件は、日・越両国の合意通りに、両国の責任ある機関が決定・合意し、コンサルタントと施工業者を選び施工プロセスを監督・実施するとともに、資金の受け渡しを厳正に行い、当初双方が合意したとおり、プロジェクトの質と要求を満たしています。このように、日本のＯＤＡ資金の使用に全く問題はありません。日本の援助でできた道路、橋、港湾、空港、学校、病院、発電所などが、両国協力関係の美しいシンボルになっていると言えます。日本の対ベトナム援助は、信頼できる人々の手に委ねられていると信じて頂きたいと思います。この貴重な援助を使用す

る過程で、我々は、不正と汚職を撲滅することを非常に重要視しています。

日本のＯＤＡ資金を効果的に使用することは我々の責務であり、同時にその債務返済については、ベトナム国民に対して有する我々の政治的責任でもあることを我々は深く認識しています。

ベトナムには、「水を飲んで泉を思い出す」或いは、「水を飲んで井戸を掘った人を思い出す」という諺があります。ここに、日本の国会、政府と納税者の皆様が、ＯＤＡ全体枠の削減の折にもかかわらず、対ベトナム援助を拡大して頂いた寛大な御配慮に対し、心から感謝申し上げます。

また、両国間の文化、科学技術、教育、観光分野での協力は、両国民をより一層親密にさせる精神的基盤を作り出しています。我々は、日本の明治維新当時の教育立国の政策と経験を参考にして、教育を非常に重要視しており、教育分野における日本の支援を高く評価しています。日本は、ベトナムで数百箇所の学校建設を支援し、数千名の留学生と研究生を受け入れて頂きました。彼らはわが国の活力の源になっているのみならず、両国国民の架け橋でもあります。

日本・ベトナム両国は、二国間協力に加え、国連、ＡＰＥＣ、

ＡＳＥＭ、東アジア、ＡＳＥＡＮ＋３、ＡＳＥＡＮ＋１などの国際フォーラムにおいても協力し合っています。我々は、日本が国連安全保障理事会常任理事国になることを一貫して支持しています。それは、日本の経済力と国連に対する貢献にかんがみて、相応しいことと考えるからです。貴国がベトナムのＷＴＯ加盟を常に支持し、ベトナムの国際経済参入のための有利な環境を造って頂いたことを高く評価いたします。

両国関係において、今まで成し遂げられたものは非常に大きな意味がありますが、まだ大きな協力の余地があります。これまで達成された成果に基づき、地域と世界の平和、安定、協力発展のために、多方面にわたる信頼あるパートナーシップを戦略的かつ長期安定的関係の確立という新たな段階に高めることが必要であると思います。

この後、安倍晋三総理との重要な会談がありますが、これからの新たな両国関係の発展に向けて合意が出来ることを期待いたします。両国政府の合意内容に対して国会議員の皆様方からの積極的なご支援を宜しくお願い申し上げます。

御列席の皆様、

我々の日本訪問が行なわれている本年（２００６年）は　ベトナムにとって特別な年です。２０年前に始まったドイモイ（刷新）政策は国の様相を一変させました。ベトナムはドイモイによって前世紀の８０年代末からの厳しい危機から脱しだけではなく、その後一貫して高い成長率で発展しています。国民生活も改善されています。文化、社会分野、特に貧困撲滅事業も大きく前進しています。国際関係はますます拡大しています。

最近、ベトナムの国家と政府の指導部が交代しましたが、ドイモイ政策は変わりません。実践によって完全に正しいと証明されたドイモイ政策は、第１０回党大会とその後の国会で再確認されました。

我々は、経済開発とともに、堅固な政治・社会的安定を維持しつつ、社会問題、貧困撲滅、住民と地域間の経済格差対策、生態系の維持や環境保全を調和よく結びつけていきます。

我々は、各分野での経済発展と、国営企業の力強い改革、並びに民間経済、そしてベトナム経済の重要な構成要素である外国投資企業を含む多くの経済セクターの発展を調和よく推し進めていきます。

我々は、市場経済体制を実現すると同時に、効率的な国家管理の有効的強化、法治国家建設、民主主義の拡大、行政改革、そして汚職の撲滅を断固として実施していきます。

我々は、国内の力を最大限に発揮させると同時に、外国の支援を積極的に取り入れ、地域と世界経済に主体的に参入していきます。

我々は、以上の政策に基づいて、次の目標達成のために全力で奮闘して参ります。短期目標は、２０１０年までに貧困から脱却し、一人当たりの平均収入を２００５年の６４０米ドルから１０００米ドルに引き上げることです。中期目標は、２０２０年までに基本的に工業国家になることです。長期目標は、豊かな国民、強い国家、そして、公正な民主主義文明社会の実現です。

我々は、国内のあらゆる資力を動員し、同時に外国からの、とりわけ極めて重要な日本の地位にかんがみ、日本からの資力を有効に活用することに努力します。我々は、ベトナムの発展にとって決定的な意味を持つ重要な建造物や案件に対する日本の温かい支援を切望しています。このような日本の支援は、ベトナムの戦略的パートナーの役割に相応しいものと考えます。また、双方の利益と発展のために、ハイテク産業を始めとするあらゆる分野に日本からの新

規投資の流れを受け入れられるよう有利な条件を創出します。

御列席の皆様、

我々は、外交の面で独立自主開放路線を堅持し、国際関係の多様化政策を実現し平等互恵、独立・主権の相互尊重の精神に基づいて国際平和と協力のために奮闘を続けてまいります。ベトナム国民は、戦争によって大きな損害を受けた民族として誰よりも自からと各民族のための平和を切に望んでいます。朝鮮半島の最近の事件に対しては、ベトナムは日本国民の皆様及び国際社会の深い懸念を共有し、この地域の非核化と核実験反対の立場を一貫して堅持しています。全ての関係者は、国連安全保障理事会議長声明、同理事会決議１６９５号及び１７１８号を遵守する必要があると考えます。また、朝鮮半島の緊張緩和と平和的解決のために、６カ国協議の再開を呼びかけます。

日本の国会の皆様が、常にベトナムに深い御関心を寄せられていることを大変嬉しく思います。国会議員のうち１００余名の方々が日本・ベトナム友好議員連盟に参加しておられることは、その証左です。私は、この重要な演壇から、日本の国会議員の皆様方が、ベトナムの国造りのために、また、ベトナム国民の利益だけではな

く、日本の国益のための事業、並びにアジア太平洋の平和・協力、発展のための事業に、我々と共に歩んで下さるよう、謹んで呼びかけるものでございます。

最後になりましたが、皆様の御健康、御多幸と御成功をお祈りいたします。また、日本の平和と繁栄、日本国民の幸せをお祈りいたします。

本日は、大変ありがとうございました。